

第 47 回全国学童保育指導員学校・西日本・愛知会場（20220605）レポート

【クラブ】（ つくしクラブ ）

【名 前】（ 西村 巧 ）

① 午後に参加した講座のタイトルをお書きください。

（ 3 ） 講座（№ ） （ 子どもの権利の観点からみる学童保育の生活 ）

※全体講座のみに参加された方は、全体講座のタイトルをお書きください。№と選んだ理由は必要ありません。

② この講座を選んだ理由をお書きください。

ここ 2～3 年、コロナ禍となり、指導員、子どもたちの親密な関係性も出来なくなっているところで今後のコロナ禍の収束に向けて再度、初心にかえって子どもの権利を勉強しなおそうと思ったので。

③ 本日の講座で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

岸田内閣が発足してしばらくたつ。彼の言葉を借りて言うのならば「聞く力」。子どもたちの言語は未発達。思考も行動も発展途上。その中で単に「権利だから」、とただ意見を言わせておくことはそれはそれで危険。僕ら指導員に必要なのはそれこそ子どもたちの言葉を「聞く力」。これはセンスと経験。子どもの権利条約を今回もまた読んだ。今回はこんな事例はどの条約に当てはまるのか、のクイズ方式。……、なるほど、子どもたちは様々な権利があって、守られている。しかし、この権利条約の存在を知っている大人はどのくらいいるのだろうか。ぼくら専門職の人間でも勘違いしてやないか、条約の一つ一つを読み違えているのではないのか？ 今回の指導員学校はそういった事を再度考える良い機会になったように思う。

クイズの中で「イベントは指導員がすべて決めてる」、これはどの条約にひっかかるのか、というものがあつた。はっきり言って自分自身も「子どもの権利条約」に関しては存在は知ってはいるものの内容に関してはそんなに詳しくはなく、常にこれを意識しながら仕事をしているわけでもない。しかし、子どもの意見は聞くようにしている。イベントに関しても子どもを巻き込んで会議を開き、ばらばらの意見の落としどころを見つけうまくまとめるようにしている。

そう思ったとき、「あ、自分にはセンスがあるな、」って勝手に自画自賛してみた。
でも、そんな矢先、高学年の子たちと一緒に夏休みのキャンプ会議をしていたところ、
ある男子の様子がおかしいことに気づき、後ほど聞いてみたら言いたいことが言えなかった
、とのこと。（もちろんその後はフォローしましたが・・・）
あー、自分、まだまだダメでした。
しかし、様子がおかしいことに気づけたのは「センスだな」って、やっぱり自画自賛して
みる。

そんな感じでこれからも子どもたちを真ん中に僕らはその良き理解者、代弁者として子ども
の置かれた状況を察知しながら保育にかかわっていきたいと思う。
いま流行りの「さん付け」論争に子どもの権利条約をあてはめながら・・・

※提出されたレポートは、当会の広報誌やホームページに掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、6/18（土）です。常勤専任指導員に手渡し、または okazakigakudou@yahoo.co.jp までお送りください。